



新緑の飛鳥 石舞台古墳

大阪教職員組合 事務職員部報

Vol 658 2014.5.30 発行 大阪教職員組合事務職員部常任委員会
大阪市天王寺区東高津 7-11 大阪府教育会館 7階
Tel. 06-6768-2330 Fax 06-6768-2239

<当面の日程>

6.5(木)事務職員部定期大会
(たかつガーデン たかつ西)
8.2(土)~4(月)
全国学校事務研究集会 (高知)

2015年度政府予算におけた 文部科学省概算要求に対する要請署名

要求実現にむけ、とりくみましょう！！

文部科学省をはじめ、政府の各省庁が翌年度予算にむけておこなう概算要求は、財務省への提出が毎年8月末とされています。

全教事務職員部は、予算措置が必要な要求について、この概算要求の作成時期に合わせ、とりくみをすすめています。本年度も、国の責任において、学校事務職員の定数改善や給与改善など労働条件の改善と、無償教育の推進を求める「要請署名」が提起されています。

大教組事務職員部としても要請署名に積極的にとりくみ、要求実現をめざします。つきましては、各単組におかれましてもとりくみをすすめていただきますようお願いいたします。

■署名用紙：各単組に送っています。増し刷りして使用ください。

署名用紙原稿が必要な場合は常任委員まで。

■提出：署名提出行動が7月25日に予定されています。

7月22日までに大教組事務職員部までご送付ください。

次回、第二回「集まれ☆若手J・M・U職員の会」の開催は、七月四日(金)を予定しています。テーマは「夏休みの過ごし方」です。子どもたちのいない夏休み。学習に、余暇に、日頃できない仕事にとりくめる時期です。「どのよう

に参加からのアンケートでは、「研修では学べない細かなことがたくさん聞けたのでこれからの仕事に活かしていきたい」と思っています。や「他市の事情を知ることができたので、良いところを取り入れることを検討したい」などの声をいただきました。

町村間での違いなどを楽しく交流することができました。話は尽きず、その後の交流会二次会も多く参加でにぎやかで楽しい会となりました。



五月十六日、今年度第一回の「集まれ☆若手J・M・U職員の会」を開催しました。新規採用事務職員も多数参加し、活気あふれる学習会となりました。

二〇一四年度 第一回 集まれ☆若手J・M・U職員の会

全教事務職員部

第二十四回定期総会

五月二十四日東京において、全教事務職員部第二十四回定期総会が開催されました。全教加盟の全国の事務職員部から代表が参加し、この間の運動を総括し、新たな方針を論議しました。

組織拡大での討論では、新規採用者が増えていることを背景に、新採用者向けに学校事務の仕事を紹介するパンフレットを作り組合加入につながった島根県をはじめ、広島や北海道高知からは組合員拡大のうれしい報告がありました。

また、臨時教職員の「空白の一日問題」(左記参照)について各県から報告がありました。この問題は、昨秋の臨時国会で「次年度の任用が明らかでないケースで、雇用が継続していると認められる場合は、被保険者資格は継続する」と政府が答弁し、その後、厚労省・総務省・文科省から全国へ通知・事務連絡が発出されました。大教組も改善を要求しています。が、実現したのは神奈川県・愛知・和歌山など数県にとどまっています。引き続き大阪でも実現させ

臨時教職員の「空白の一日」問題とは

臨時任用職員は、地方公務員法第二十二條の規定により、一年を越えて継続して任用ができません。最低一日以上の任用されない期間が、毎年設けられています。

大阪では、三月末にその期間が設定されています。そのことにより、臨時教職員の中には、事実上継続されて任用されるにもかかわらず、三月末の空白期間のために社会保険が継続されず、煩雑な手続きや不利益が生じています。



ていくことが重要です。

さらに、就学援助制度の改善や、高校授業料無償化廃止への怒りと「就学支援金」事務の問題など、直面する課題について論議されました。

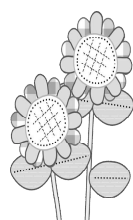
採決では、運動方針及びびスローガン、特別決議「安倍『教育再生』ストップ、憲法改悪を許すな」を満場一致で採択し、決意を新たにしました。

総会では、全教事務職員部役員選挙も実施されました。堺教組出身で長年全教事務職員部長を務めていただいた石丸武志さんの勇退にもない、大阪からは、新たに堺教組から高木芳晴さんが、また引き続き府高教の石井直樹さんが、全教事務職員部常任委員に選出されました。また、全教事務職員部長には和歌山の前島正人さんが選出されました。



今年の夏は高知へ行こう！ 全国学校事務研究会 高知集会

語り合おう子どもの未来！
育てよう民主教育！
つくりだそう私たちの学校事務！



◆記念講演

「フクシマに向き合う青年たちと核被災と教育」
太平洋核被災支援センター事務局長
山下正寿 氏

◆講座①

さらなる賃下げ攻撃に反対し、たたかおう
人事院の「給与制度の総合的見直し」を許すな
全教中央執行委員会 米田生権局長

◆講座②

愛と勇気と正義
「やなせたかしが遺したメッセージ」
アンパンマンミュージアム 振興財団事務局長
仙波 美由紀 氏

第二十四回を迎える全国学校事務研究会は、八月二日（土）から四日（月）の日程で、四国・高知市で開催されます。
安倍政権による、憲法改悪、安倍「教育再生」の名による反動教育の策動が強まっています。
いま、無償教育や民主教育の推進はたいへん重要です。学校事務職員の任務と役割、父母・国民との共同など、全国のなかまの実践を学び、議論して、さらなる学校事務の向上をめざしましょう。
事務研成功に向けて積極的な参加をお願いします。

（分科会案内）

第一分科会
「学校づくりと事務職員の役割」

第二分科会

「子どもの学習権を守るための私たちのとりくみ」

第三分科会

「ゆきとどいた教育をめざす自治体へのとりくみ」

第四分科会

「労働条件、権利を守り、安心して働き続けるために」

★参加は、各単組で取りまとめ、申し込み用紙に記入し、六月二十日までに大教組事務職員部教文部まで送ってください。

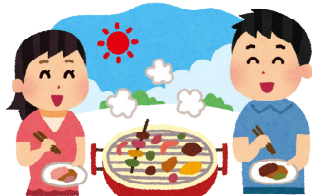
～～単組・ブロックでのとくみから～～

岸和田教組 新歓ハイキング 5/10

5月10日岸教組で『おそらく第1回新歓ハイキング』を行いました。例年、夏の学習会までみんなで集まる機会がないので、新規採用者に向けて早い時期に何かイベントを開催したいと思っていました。そこで、ここ最近岸和田市外からの採用者が多いこともあり、岸和田を知ってもらおうという意味もこめて、和泉葛城山にハイキングに行くことになりました。

当日は素晴らしいハイキング日和になりました。新規採用者全員を含む多くの方が参加してくれました。南海・JRの各駅から登山口までバスで行き、いよいよ登山開始です。途中、過酷な箇所もありましたが、キラキラした新緑の中を歩くのは本当に気持ち良かったです。そして、頂上では先行部隊が到着していて、手作りの豚汁、フルーツ、コーヒーをふるまってくれました。

帰る頃には、新規採用者にも名前を覚えてもらえていたので、行った甲斐があったのかなと思いました。参加者一同、よく歩き、よく食べ、そしてよく語ることが出来た一日でした。



寝屋川市教組 歓送迎会 5/10

寝屋川で今年4月に校種間異動により定時制高校に勤務になった方を囲んで、5月10日土曜日の「ランチ」タイムに開催しました。

参加者からは、小中学校との事務処理システムのちがいにとまどいを感じながらも、定時制高校で頑張っている方への激励と、帰ってきてほしいとの声も聞かれ、予定時間を大きく越えて閉会しました。

第八十五回大阪メーデー 「働くものの団結で！」

五月一日、扇町公園において「働くものの団結で生活と権利を守り、平和と民主主義、中立の日本をめざそう」をスローガンに、第八十五回大阪中央メーデーがおこなわれ、六千人が参加しました。

安倍暴走政治による消費税増税、「安倍雇用改革」をはじめとする大胆な規制緩和、特定秘密保護法や集団的自衛権行使などの軍事大国化路線、さらには、TPP参加、原発推進などに反対し、労働者・国民の生活危機打開、くらしと雇用を守り人間らしく生き、働き続けられる社会の実現めざそうと、意気高くとりくまれました。

開会直前まで降っていた雨もあがり、好天のなか、集会・デモ行進をおこなうことができました。

「労働者派遣法の改悪あきらめん」「憲法9条守れ」「大阪都ストップ、維新政治打破」と要求を書いた横断幕やプラカードが職場から持ち寄られ、掲げられる中、安倍暴走政治と、橋下維新の独裁政治にストップをかける国民的・府民的共同のたたかいをすべての職場・地域から強めることを誓い合うメーデー宣言が採択されました。



日進月歩

今春、中学校から定時制高校へ人事異動することになった▼今から十年前「学校事務職員になりた」と思い、最初に受けたのが、京都府の学校事務採用試験。小中学校だけでなく高校へも行けるらしく頑張ってみたが、残念ながら最終で不合格であった。しかも受験の年齢制限で、これが最初で最後のチャンスだったので高校への夢をあきらめざるを得なかった。それから、紆余曲折を経て大阪府の学校事務職員となり中学校で勤務となった▼数年前、高校との人事交流制度の存在を知り「果たせなかつた夢に向けてもう一度挑戦したい」という思いがこみ上げてきた。何度か挑戦した結果、やっと夢がかなった。過去は変えることはできないが、未来は変えることができる。あきらめず挑戦し続けたい。いつかはかなうであろうと思いつけた結果であると感じている▼定時制には様々な人たちが学んでいる。「仕事をしながら学びたい」「中学校時代はうまくいかなかったけど、高校は頑張って卒業したい」「資格をとるために高卒資格が必要だ」「退学してしまっただけ、もう一度高校へ行って勉強したい」「子や孫が勉強する姿をみて、果たせなかつた学校生活を送りたい」いろいろな思いを持った生徒がいる。様々な事情を抱えつつも学校で学びたいという姿勢は素晴らしいと思うとともに、改めて教育の場の大切さを感じている▼新しい職場で二か月、戸惑うこともしばしばである。まして定時制ともなれば勤務時間など環境の変化も大きい。しかしながら、やっとなつかんだ自分の夢、大事にしたい。同時に、定時制の教育環境改善に手腕を振りたい。月の光が輝く夜空を見上げ、そんなことを考えている。(F・J)

